

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Plasma Oxytocin Concentrations During and After Gestation in Japanese Pregnant Women Affected by Anxiety Disorder and Endometriosis

和文タイトル:

妊娠中の血中オキシトシン濃度と不安障害と子宮内膜症の既往歴の影響

ユニットセンター(UC)等名: 鳥取UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Yonago Acta Medica

年: 2020 月: 11 巻: 63 頁: 301

筆頭著者名: 増本年男

所属UC名: 鳥取UC

目的:

オキシトシンは、母子関係形成・養育行動・社会的相互作用・ストレス関連精神疾患などに重要である。しかし、既往歴や養育行動など、妊娠中や妊娠後のオキシトシン濃度を決定する要因は不明である。これらを明らかにするために、エコチル調査を用い、妊娠中・妊娠後のオキシトシン濃度と既往歴との関係を分析した。

方法:

年齢と出産回数で調整し、不安障害もしくは子宮内膜症の既往歴を持つ女性をケースとし、そうではない女性をコントロールとした162名の女性を選択した。それらの女性の妊娠前期、妊娠中後期、出産直後の血中オキシトシン濃度を、抗オキシトシン抗体を用いた酵素免疫測定法によって測定した。既往歴で二群に分け、平均血中オキシトシン濃度を計算した。

結果:

これまで報告された他の研究と同様に、オキシトシン濃度は時間依存的に上昇した。妊娠前期のオキシトシン濃度と母親の年齢および身長との間には弱い負の相関があったが、他の因子との相関はなかった。妊娠中後期、出産直後のオキシトシン濃度は不安障害の既往歴のある妊婦(n = 7)および子宮内膜症の既往歴のある妊婦(n = 13)で、既往歴のない妊婦よりも有意に低かった。

考察:(研究の限界を含める)

これらの結果から、妊娠中および妊娠後のオキシトシン濃度は、不安障害と子宮内膜症の過去の既往歴が影響していることが示唆された。オキシトシンは出産・授乳・養育行動に関わるホルモンであるため、これらの行動に既往歴が関連する可能性がある。本研究は、オキシトシン濃度と子宮内膜症との関係を調べた初めての研究である。本研究は質問表をベースとした研究のため、子宮内膜症とオキシトシンの分子メカニズムを詳細に明らかにするためには、さらなる研究が必要である。

結論:

妊娠中および妊娠後のオキシトシン濃度は、不安障害と子宮内膜症の過去の既往歴が影響している。